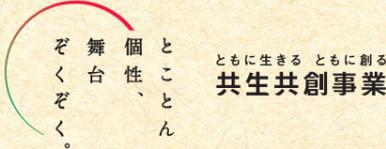


ともに生きる ともに創る 共生共創通信

VOL.18



撮影：加藤甫

壁を取り払うことで、 人と人は混じり合う



「春日台センターセンター」
多世代が共に暮らす地域の拠点
どこか懐かしさを感じる商店街を抜けると、木造の庇が長く伸びた、横に長い建物が現れました。大きなガラス張りの窓からは建物の中央にある高齢者施設の様子を覗くことができます。イベントを開催していた敬老の日、施設の一角にある小上がりを舞台上に、日本舞踊が披露されていました。観客は赤ちゃんや小学生、その親御さんたちまで。施設の利用者ご家族が、職員の方々と一緒に舞台を囲み、演者へ声援を送ります。

その隣、高齢者施設の角にあるコロックスタンドでは、エプロンと帽子を身に着けた人たちが生き生きと働いています。コロックを買いに、次々とお客さんが訪れていました。土間を挟んだ向かいにあるコインランドリーでは、洗濯が終わるまでの間、室内のイスに座って親子がコロックを頼りながら談笑しています。

建物の外に目を向けてみると、高齢者施設の目の前にあるスロープでは、少年たちがスケートボードに興じています。軒下にある縁側にも、少年たちが腰かけ、思い思いに過ごしています。

愛甲郡愛川町にある複合型福祉施設「春日台センターセンター」。この場所には、施設を利用する高齢者や障がいのある方、子ども、そして散歩に訪れた地域の人たちが垣根なく混じり合う風景があります。

公演情報 綾瀬シニア劇団Hale 第5回公演 『Hale版 父の詫び状』

いまなお絶大な人気を誇る向田邦子さんのエッセイ「父の詫び状」をモチーフに、昭和初期の歌謡曲、子供のころの遊び、そして、家族との思い出を織り交ぜ、日本人の原風景をポップに描きます。あなたも、つかの間の時間旅行に行ってみませんか？

日時：2024年12月7日(土) 12:10開演 / 16:10開演 12月8日(日) 14:10開演

場所：綾瀬市オーエンス文化会館大ホール

構成・演出・プロジェクトリーダー：倉品淳子

出演：綾瀬シニア劇団Haleメンバー

料金：1000円(日時指定・自由席・当日精算) ※状況により当日券を販売いたします。

予約受付・お問合せ：お名前(ふりがな)、電話番号、メールアドレス、ご希望日時、枚数を以下のいずれかの方法でご連絡ください。

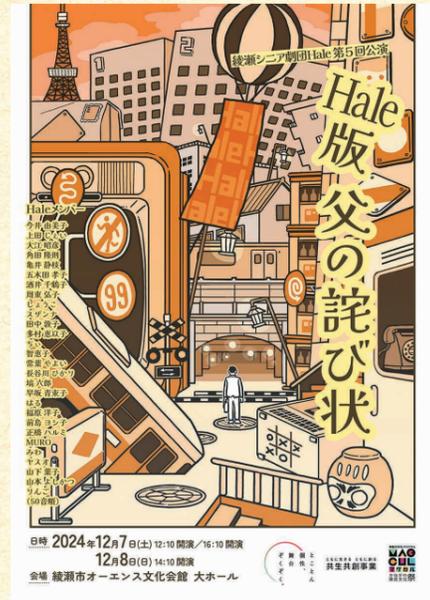
予約フォーム：<https://krs.bz/kanagawaaf/m/hale2024/>

TEL：080-5885-3373 (10:00～18:00)

メール：kyoso@kanagawa-af.org



予約フォーム



2024年度神奈川県 共生共創事業 今後のラインナップ

神奈川県では、年齢や障がいなどにかかわらず、すべての人が舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」を実施しています。

2024年12月7日(土)、8日(日) 演劇

綾瀬シニア劇団 Hale
第5回公演『Hale版 父の詫び状』
綾瀬市オーエンス文化会館 大ホール

2025年2月9日(日) 音楽

『音の探検隊2024 in 平塚』(仮)
観客参加型発表会
ひらしん平塚文化芸術ホール 多目的ホール

2025年2月22日(土) 演劇

小田原シニア劇団チリアクオールディーズ
(タイトル未定・新作公演)
小田原市生涯学習センターけやきホール

2025年3月5日(水)～9日(日) 音楽

神奈川県あそび歌プロジェクト
『世界のうたとあそぼう!』
展示(全日程)、ワークショップ(8日のみ)
神奈川県民ホール ギャラリー

2025年3月8日(土) 演劇

横須賀シニア劇団「よっしゃ!!」
レトロシアター『あおげあおげ』『かさじぞう』
神奈川県民ホール 小ホール

2025年3月9日(日) 演劇

精神障害を考える
演劇ワークショップ・プロジェクト
パフォーマンス+トークイベント
神奈川県民ホール 小ホール

2025年3月15日(土) ダンス

チャレンジ・オブ・ザ・シルバー
『Largo』
神奈川県民ホール 大ホール



<https://kyosei-kyoso.jp>

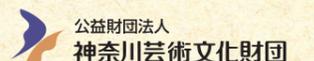
2025年2月22日(土)、23日(日) 演劇

横須賀シニア劇団「よっしゃ!!」
第9回公演『夏の夜の夢』
ヨコスカ・ベイサイド・ポケット

お問合せ

公益財団法人神奈川県芸術文化財団 社会連携ポータル課 〒231-0023 横浜市中区山下町3-1 神奈川県民ホール内
電話 045-222-0553 (平日 10:00～18:00) ファックス 045-663-3714 メール kyoso@kanagawa-af.org

主催 神奈川県 企画製作 公益財団法人神奈川県芸術文化財団 発行 2024年11月 編集・ライター 橋本誠、福井尚子 デザイン 水澤充 (MYG round inc.)



共生共創通信 壁を取り払うことで、 人と人は混じり合う

日本舞踊を披露しているのは施設職員の方



右後方がセンター長の平本裕子さん

ガラス張りの施設の中が、
働く人たちのステージ

「春日台センターセンター」は、2022年にオープンした、障がいのある方の就労支援や高齢者の介護など7つの機能を持つ地域共生文化拠点です。住宅地の中核として機能していたスーパーマーケット「春日台センター」の跡地に建設され、誰もが気軽に立ち寄れるコミュニティの中心にセンターにしていこうとの思いからこの名前がつけられました。3つの棟に分かれた2階建ての施設内には、認知症グループホーム、小規模多機能居宅介護施設、障がい者就労支援施設（A型・洗濯代行）（B型・ロッケスタンド）、放課後等デイサービス、寺子屋、コインランドリー、コモンスルームがあります。施設の計画に際して、地域で活動する

撮影：佐藤光展

が歌の世界観に重なるような経験をしてきたからこそ、こんなに真に迫って聴こえるんだなと思いました。音楽は、その人の人生や大事にしていることを知る手がかりになると感じています。

Q4 3月に予定されている成果発表会では、どのようなことを行う予定ですか？

OUTBACKのメンバーたちが、ワークショップの場で起きたこと、その場で受け取ったことを、パフォーマンスで表現できたらと思っています。またメンバーや有識者によるトークの時間も想定しています。

Q5 最後に、このプロジェクトを通してどんなことが起こるのを期待していますか？

精神科病院や精神障害と聞くと、どうしても遠い世界に感じてしまう方も多いと思います。でも、気持ちが落ち込むとか、精神的な不調でお休みするとかは、誰にとってもあり得ることですね。精神障害が自分たちの世界と地続きだということを受け取ってもらえるようなアウトプットを、OUTBACKのメンバーの力を活かしながら作りたいです。

「精神障害を考える演劇ワークショップ・プロジェクト」とは

精神疾患を抱えながら演劇活動をしているOUTBACKのメンバーが精神科病院に赴き、ワークショップを行うプロジェクト。2025年3月9日（日）に神奈川県民ホール小ホールにて成果発表イベントを予定。

2024年9月6日（金）に横須賀市文化会館で、特別支援学校の児童・生徒を招待したコンサートが開催されました。神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏にあわせて、参加者も手拍子をしたり、歌ったりしながら楽しみました。



『精神障害を考える 演劇ワークショップ・ プロジェクト』

中村マミコさんに活動についてうかがいました。



Q1 まずは中村さんが共同代表を務める「OUTBACKプロジェクト」の「OUTBACKアクターズスクール」について教えてください。

地域で暮らす精神疾患のある人たちと演劇を作る活動をしています。既存の台本を使うのではなく、自身の病気を経ての体験や考えたこと、感じたことなどを中心に作品を作っています。

Q2 今回の演劇ワークショップ・プロジェクトではどのような活動を行いますか？

OUTBACKのメンバーと共に精神科病院を訪問し、ワークショップを行います。体を動かすゲームを通じて交流しながら、それぞれが大切に思う音楽を披露し、なぜその音楽が大切なのか、音楽をきっかけに自身のことを語り、聞き合う時間をつくります。

精神科病院は長期入院をしている方も多く、病院の外の世界との関わりが持ちづらいという側面があります。そこに入院経験をもつOUTBACKのメンバーが訪れ、関わりを持つということは、互いに近い存在として、思いや考えを共有できるのではないかと考えています。

Q3 なぜ「音楽」を切り口にしたのでしょうか？

私は福祉の仕事をしているときに、多くの病院や施設でカラオケが身近な娯楽として親しまれているのを見ました。また以前、精神疾患のある方がカラオケで情緒的な歌を歌うのを聴いたときに、それまで興味がなかったその曲がすごく良いなと思えたことがあって。ご自身ノ

「みんなのスマイル・コンサート」が 開催されました

オーケストラの生演奏を間近に聞くことができ、子どもたちの色んな表情を見ることができました。（筑波大学附属久里浜特別支援学校・教師）

聞き覚えのある楽曲で楽器の説明をしたり、ボディパーカッションをしたりと構成が工夫されていて、最後まで楽しませていただきました。（神奈川県立武山支援学校津久井浜分教室・教師）

アニメソングや合唱曲でも、オーケストラになると曲の雰囲気が変わって面白かったです。クラシックの曲を聴くと心が軽くなって、音楽は人生を変えていくと思いました。（神奈川県立武山支援学校津久井浜分教室・生徒）

多様な人が語り合う場として「あいかわ暮らしラボ」が立ち上がりました。地域に暮らす人々の間に関係性が生まれ、対話の中から生まれてきた地域のニーズが、施設の持つ機能として形になっていきます。

春日台センターセンターを運営する、愛川舜寿会・理事長の馬場拓也さんは、「ここにあるものは家内労働の集合体なんです」と言います。「これまで女性が担ってきた介護、洗濯、炊事などの家内労働が、女性の社会参画によって家庭で担いきれなくなってきた。その課題解決が施設の機能でもあるんです」。

課題解決を担う施設が人々にとって居心地の良い場所となるために、建築には工夫が凝らされています。暑い日差しや雨から守ってくれる大きな庇、その下には、縁側やベンチなど腰掛けられる場所がたくさんあり、どこにいてもくつろぐ

の人たちが目にするようになり、施設の中はさながら舞台のようになります。これまで影の仕事だった福祉の仕事に光があたり、人の目があることで、職員たちの成長も促すと考えています。（馬場さん）

施設の利用者ではない人にとっても立ち寄りやすいのが、ロッケスタンドとランドリー、そしてコモンスルームです。この日もたくさんの方がロッケのテイクアウトを利用。ランドリーの2階にあるコモンスルームでは、勉強をする人や、フリータイムを利用して、パソコンで仕事をする人の姿が見られました。

就労支援施設で働いている方の中には、「お母さんに働いている姿を見てほしいから」と、他の施設から移って来た方もいるそう。「高齢者の方たちも障がいのある方たちも、本来地域で当たり前前にみんなと暮らせるはずの人たちなんですよ。そう

ことができます。また横長の建物を貫くようにある2本の通り土間は、住宅地の路地から続くように設けられ、街とつながっています。更に特徴的なのは壁のほとんどがガラス張りになっていること。高齢者施設の利用者や職員、就労支援施設で働く人々の姿も外から見えるようになっていきます。「施設の中で何か問題が起こるのは、人の目がないとき。ガラス張りの壁によって、働いている姿を窓の外から地域の

いう人たちの顔が見えるようになりまし」とセンター長の平本裕子さん。「施設にしているとどうしても『ありがとう』と言われるより言うことのほうが多くなってしまうけれど、お店をやっていると『ありがとう』『美味しかったよ』と言ってもらえる。それも嬉しいようです」と微笑みます。壁を取り払い、お互いの姿を見えるようにすることで、年齢や特性を超えて人と人は混じり合う。多様な人が共に生きる社会へのヒントが、ここにあります。



愛川舜寿会・理事長の馬場拓也さん



春日台センターセンター
神奈川県愛甲郡愛川町春日台3丁目6-38
<https://aikawa-shunjuikai.jp/kcc/>

撮影：加藤甫